

2025年度 受講生授業アンケートの集計結果について

調査活動WG長 後藤 力

<はじめに>

2025年度前期および後期に実施した受講生授業アンケートの結果についてご報告いたします。現在のアンケートは、2022年度にAssessorを用いた調査方法を導入して以降、2023年度にはマニュアルの微調整のみとなり、運用が安定してきたものと考えております。

今後は、この安定した運用を基盤に、学生の回答率向上と、回答内容の教育現場への有効活用が一層求められます。そのためには、教員の皆様からの建設的なご意見を積極的に取り入れ、共に改善に向けた取り組みを進めていくことが重要です。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートの実施は、教員と学生双方のご協力によって支えられております。授業時間を割いてご対応くださっている教員の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

<質問項目>

授業アンケートの質問項目は、学生自身の学修への取り組み（Q1とQ2）、教員の教育力（Q3～Q7）、そして教育の成果（Q8とQ9）を学生自身が自己評価できるように整理されています。2021年度以降は、自由記述を含めて10項目で構成されており、授業改善の視点を重視した内容としております。なお、自由記述（Q10）には2022年度より、誹謗・中傷などの不適切な記述に対する注意書きを追記しました。

表1 2025年度 受講生授業アンケートの質問項目と選択肢

Q1. 【学修時間】あなたは、この授業の学修を1週間で平均どの程度しましたか？ただし、この学修には教室等で授業を受けている時間や試験の準備に使った時間も含まれます。 1 1.5時間（90分）未満 （例：教室でしか学修しておらず、授業外学修を全くしていない） 2 1.5時間～2.5時間未満（例：授業90分＋授業外学修1時間弱） 3 2.5時間～3.5時間未満（例：授業90分＋授業外学修2時間弱） 4 3.5時間～4.5時間未満（例：授業90分＋授業外学修3時間弱） 5 4.5時間～5.5時間未満（例：授業90分＋授業外学修4時間弱） 6 5.5時間以上（例：授業90分＋授業外学修4時間以上）	Q6. 【フィードバック】教員から、あなたの学修成果に対する適切な評価や指導はありましたか？ 1 全くそう思わない（例：評価や指導が一切なく、どこを修正したらよいのか全く分からなかった） 2 あまりそう思わない 3 どちらかといえばそう思わない 4 どちらかといえばそう思う 5 そう思う 6 強くそう思う（例：適宜、適切な評価や指導があり、学修の改善に大いに役立った）
Q2. 【学修意欲】あなたは、この授業の到達目標を意識し、目標達成に向けて意欲的に学修に取り組みましたか？ 1 とても消極的でほとんど学修しなかった 2 消極的であまり学修しなかった 3 どちらかといえば消極的な学修態度であった 4 どちらかといえば意欲的に学修に取り組んだ 5 意欲的に学修に取り組んだ 6 非常に意欲的に学修に取り組んだ	Q7. 【アクティブ・ラーニング】次の①～⑤に例示したような取り組みのいずれかが、授業に組み込まれていましたか？ ①教員からの問いかけに基づき、授業の内容について深く考える。 ②授業の内容について質問する（ミニッツペーパー、リアクションペーパー、シャトルカードなども含む）。 ③教員や他の学生と議論する（グループワークなど）。 ④自ら調査を行う。 ⑤個人もしくはグループで作業を行い、成果物を作成する（レポートやプレゼンテーション作成など）。 1 全くそう思わない（例：教員の話を一方向的に聴くだけの授業であった） 2 あまりそう思わない 3 どちらかといえばそう思わない 4 どちらかといえばそう思う 5 そう思う 6 強くそう思う（例：思考／質問／議論／調査／作成などの機会が多くあった）
Q3. 【聴覚情報】教員の話し方（配信動画も含む）は明瞭で、聞き取りやすかったですか？ 1 不明瞭で、全く聞き取れなかった 2 聞き取りにくかった 3 どちらかといえば聞き取りにくかった 4 どちらかといえば聞き取りやすかった 5 聞き取りやすかった 6 明瞭で非常に聞き取りやすかった	Q8. 【パフォーマンスの変化】この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか？ 1 全くそう思わない（例：授業を受ける前と何も変わらなかった） 2 あまりそう思わない 3 どちらかといえばそう思わない 4 どちらかといえばそう思う 5 そう思う 6 強くそう思う（例：授業を受けて価値のある変化があった）
Q4. 【視覚情報】板書、パワーポイント、配付資料、動画など、教員が独自に用意した視覚的な資料は分かりやすかったですか？ 1 非常に分かりにくかった 2 分かりにくかった 3 どちらかといえば分かりにくかった 4 どちらかといえば分かりやすかった 5 分かりやすかった 6 とても分かりやすかった	Q9. 【満足度】総合的にみて、この授業に満足しましたか？ 1 全く満足していない 2 あまり満足していない 3 どちらかといえば満足していない 4 どちらかといえば満足した 5 満足した 6 非常に満足した
Q5. 【理解度の把握】教員は、アンケート、小テスト、課題などを用いたり、質問を投げかけたりすることによって、学生の理解度を把握するように努めていましたか？ 1 全くそう思わない （例：教員は学生の理解度を考慮せず、一方向的に授業を進めていた） 2 あまりそう思わない 3 どちらかといえばそう思わない 4 どちらかといえばそう思う 5 そう思う 6 強くそう思う （例：教員は学生の理解度を適宜、把握し、教え方を修正しようとしていた）	Q10. 【自由記述】この授業で良かった点があれば具体的に記載してください。また、改善して欲しい点がある場合も具体的に記載してください。（自由記述、200字以内） ※授業改善の趣旨に反する、単なる教員への誹謗、中傷などを記述した場合には、個人を特定し情報モラル教育の視点により指導することがありますので十分注意してください。



<回答者数および回収率>

現在、Assessmentor上で実施している受講生授業アンケートは、1科目につき1回の回答形式となっております。このため、共同開講やオムニバス形式など複数の教員が担当する授業では、授業全体としての評価となり、個々の教員に対する具体的な改善点が把握しにくいというご意見を度々頂いております。システムの仕様上、現時点での対応は難しいため、恐縮ではございますが、自由記述欄に教員名を明記の上、良かった点や改善してほしい点をご記入いただくよう、受講生の皆様にご協力をお願いしております。

次に、受講生授業アンケートの実施状況について、授業区分ごとの授業数、履修者数、回答数および回収率を表2に示します。

2020年度以降、アンケートはWEB形式で実施されており、回収率の維持・向上が継続的な課題となっております。

2021年度からは、旧カリキュラム等による受講者数の少ない科目を除き、原則として全科目を対象にアンケートを実施する体制に移しました。さらに、回収率を適切に把握するため、2023年度にはアンケートを実施しない科目を事前に調査し、履修者の少ない授業とともに学生が誤って回答しないよう、あらかじめ入力できない設定にするなどの対応を行いました。

2022年度のアンケート回収率は、前期68.8%、後期62.1%でしたが、2023年度は前期54.9%、後期59.6%とやや低下しました。これは、Assessmentorを用いた調査も2年目を迎えたことで教員および学生双方にシステム利用の「慣れ」が生じ、授業内でアンケート入力の時間を設けずに「後で入力しておいてください」との案内のみで授業を終了してしまい、結果として学生が入力を失念するケースが増えたことが一因と考えられます。

2025年度には、各教員の授業内でのアナウンスにご協力いただいていることもあり、前期61.2%、後期55.4%と後期に若干の減少傾向はあるものの、ほぼ同一レベルを保っております。この後期における若干の減少は、後期に比較的授業数が増える実験・実習科目の形態に要因があると思われます。この要因は、授業後すぐに着替えや移動が必要となるため、その場でアンケート入力の時間を取ることが難しく、結果として学生の自主入力に頼らざるを得ない状況になりやすいためではないかと考えられます。

今後も引き続き回収率向上に向けて取り組んでいく必要があります。そこで効果的であると考えられる対応として：

- 1) FD委員会による「授業終了前アナウンスの徹底」
- 2) 各学科での「入力ルールの整備」
- 3) 各教員による「アンケート入力時間の事前確保」

1) については、すでにアナウンス用のメールを配信済みですが、その内容や送信時期については、今後さらに検討を重ねてまいります。2) および3) に関しては、教員および各学科のご理解とご協力が不可欠です。最終授業時に5分ほどの時間をとることを各教員が忘れずに実施するように、時期が来た際には会議等でアナウンスするなど具体的な対応をご検討くだされば幸いです。引き続き、アンケート回収率の向上に向けたご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<回答分布>

次に、表3～5に、授業区分ごとの設問内容およびそれに対する回答数を示します。これらのデータは延べ回答数に基づいて集計しているため、表2に示した履修者数に対する回収率とは一致しない点にご留意ください。

表3 講義科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 14,739)> <共通・専門・教職 (n = 11,337)>

	設 問	2025年度前期							平均	2025年度後期							平均										
		6	5	4	3	2	1	6		5	4	3	2	1													
		大変そう思う						まったくそう思わない						大変そう思う						まったくそう思わない							
		>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	>5.5h		4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h													
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	635	474	1,054	2,606	6,413	3,552	2.35	550	407	878	2,033	4,957	2,510	2.41												
		4.3%	3.2%	7.2%	17.7%	43.5%	24.1%		4.9%	3.6%	7.7%	17.9%	43.7%	22.1%													
	Q 2.【学修意欲】	3,748	5,974	3,740	942	208	113	4.80	3,027	4,563	2,753	698	166	119	4.81												
25.4%	40.5%	25.4%	6.4%	1.4%	0.8%	26.7%	40.2%		24.3%	6.2%	1.5%	1.0%															
2. 授業内容と 教員の評価	Q 3.【聴覚情報】	4,817	6,212	2,847	607	171	67	5.00	3,729	4,877	2,089	449	118	61	5.01												
		32.7%	42.1%	19.3%	4.1%	1.2%	0.5%		32.9%	43.0%	18.4%	4.0%	1.0%	0.5%													
	Q 4.【視覚情報】	4,925	6,166	2,709	647	205	71	5.00	3,757	4,723	2,180	450	150	69	5.00												
	33.4%	41.8%	18.4%	4.4%	1.4%	0.5%	33.1%		41.7%	19.2%	4.0%	1.3%	0.6%														
	Q 5.【理解度の把握】	4,758	6,394	2,775	488	193	116	5.00	3,690	4,893	2,109	370	180	87	5.00												
	32.3%	43.4%	18.8%	3.3%	1.3%	0.8%	32.5%		43.2%	18.6%	3.3%	1.6%	0.8%														
	Q 6.【フィードバック】	4,101	6,092	3,248	708	399	178	4.83	3,302	4,693	2,424	510	273	130	4.87												
27.8%	41.3%	22.0%	4.8%	2.7%	1.2%	29.1%	41.4%		21.4%	4.5%	2.4%	1.1%															
3. 総合評価	Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4,017	6,107	3,220	765	379	243	4.81	3,202	4,732	2,399	541	268	190	4.84												
		27.3%	41.4%	21.8%	5.2%	2.6%	1.6%		28.2%	41.7%	21.2%	4.8%	2.4%	1.7%													
	Q 8.【パフォーマンスの変化】	4,859	6,692	2,670	304	123	64	5.06	3,302	4,693	2,424	510	273	130	4.87												
	33.0%	45.4%	18.1%	2.1%	0.8%	0.4%	29.1%		41.4%	21.4%	4.5%	2.4%	1.1%														
	Q 9.【満足度】	4,923	6,521	2,668	404	154	53	5.05	3,736	5,027	2,093	295	111	63	5.04												
33.4%	44.2%	18.1%	2.7%	1.0%	0.4%	33.0%	44.3%		18.5%	2.6%	1.0%	0.6%															

表4 演習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 5,416)> <共通・専門・教職 (n = 3,394)>

	設 問	2025年度前期							平均	2025年度後期							平均
		6	5	4	3	2	1	6		5	4	3	2	1			
		大変そう思う			まったくそう思わない					大変そう思う			まったくそう思わない				
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h 256	4.5-5.5h 208	3.5-4.5h 392	2.5-3.5h 1,019	1.5-2.5h 2,195	<1.5h 1,345	2.39	>5.5h 245	4.5-5.5h 160	3.5-4.5h 292	2.5-3.5h 624	1.5-2.5h 1,313	<1.5h 760	2.56		
		4.7%	3.8%	7.2%	18.8%	40.5%	24.8%		7.2%	4.7%	8.6%	18.4%	38.7%	22.4%			
	Q 2.【学修意欲】	1,530 28.2%	2,178 40.2%	1,281 23.7%	294 5.4%	74 1.4%	53 1.0%	4.86	1,071 31.6%	1,309 38.6%	732 21.6%	184 5.4%	52 1.5%	42 1.2%	4.90		
Q 3.【聴覚情報】	1,809 33.4%	2,251 41.6%	944 17.4%	249 4.6%	109 2.0%	45 0.8%	4.97		1,232 36.3%	1,398 41.2%	575 16.9%	121 3.6%	41 1.2%	22 0.6%		5.06	
Q 4.【視覚情報】	1,790 33.1%	2,214 40.9%	1,026 18.9%	246 4.5%	81 1.5%	51 0.9%		4.97	1,183 34.9%	1,422 41.9%	594 17.5%	125 3.7%	40 1.2%	26 0.8%	5.03		
2. 授業内容と 教員の評価	Q 5.【理解度の把握】	1,803 33.3%	2,262 41.8%	1,020 18.8%	190 3.5%	87 1.6%	46 0.8%		4.99	1,226 36.1%	1,415 41.7%	596 17.6%	96 2.8%	35 1.0%		22 0.6%	5.07
	Q 6.【フィードバック】	1,634 30.2%	2,223 41.0%	1,122 20.7%	245 4.5%	127 2.3%	59 1.1%	4.89		1,167 34.4%	1,389 40.9%	609 17.9%	138 4.1%	57 1.7%	29 0.9%	5.00	
	Q 7.【アクティブ・ラーニング】	1,715 31.7%	2,241 41.4%	1,073 19.8%	222 4.1%	99 1.8%	63 1.2%		4.94	1,172 34.5%	1,400 41.2%	615 18.1%	119 3.5%	51 1.5%	35 1.0%		5.01
	Q 8.【パフォーマンスの変化】	1,634 30.2%	2,223 41.0%	1,122 20.7%	245 4.5%	127 2.3%	59 1.1%	4.89		1,167 34.4%	1,389 40.9%	609 17.9%	138 4.1%	57 1.7%	29 0.9%	5.00	
	Q 9.【満足度】	1,823 33.7%	2,348 43.4%	932 17.2%	177 3.3%	81 1.5%	52 1.0%		5.02	1,191 35.1%	1,486 43.8%	570 16.8%	94 2.8%	35 1.0%	18 0.5%		5.08

表5 実験・実習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 2,457)> <共通・専門・教職 (n = 2,673)>

	設 問	2025年度前期							平均	2025年度後期							平均
		6	5	4	3	2	1	6		5	4	3	2	1			
		大変そう思う			まったくそう思わない					大変そう思う			まったくそう思わない				
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.43	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.84		
		160	92	195	440	877	692		291	167	291	528	866	529			
		6.5%	3.7%	7.9%	17.9%	35.7%	28.2%		10.9%	6.2%	10.9%	19.8%	32.4%	19.8%			
2. 授業内容と 教員の評価	Q 2.【学修意欲】	1,023	937	389	78	13	16	5.15	1,135	1,040	396	64	18	15	5.19		
		41.6%	38.1%	15.8%	3.2%	0.5%	0.7%		42.5%	38.9%	14.8%	2.4%	0.7%	0.6%			
	Q 3.【聴覚情報】	1,017	972	360	70	17	14	5.17	1,107	1,130	337	64	26	7	5.20		
		41.4%	39.6%	14.7%	2.8%	0.7%	0.6%		41.4%	42.3%	12.6%	2.4%	1.0%	0.3%			
	Q 4.【視覚情報】	984	972	387	80	16	15	5.13	1,043	1,128	403	68	17	11	5.15		
		40.0%	39.6%	15.8%	3.3%	0.7%	0.6%		39.0%	42.2%	15.1%	2.5%	0.6%	0.4%			
	Q 5.【理解度の把握】	984	992	376	57	31	14	5.14	1,077	1,117	388	64	19	8	5.18		
		40.0%	40.4%	15.3%	2.3%	1.3%	0.6%		40.3%	41.8%	14.5%	2.4%	0.7%	0.3%			
Q 6.【フィードバック】	981	1,007	377	57	15	15	5.16	1,096	1,095	385	64	20	12	5.18			
	39.9%	41.0%	15.3%	2.3%	0.6%	0.6%		41.0%	41.0%	14.4%	2.4%	0.7%	0.4%				
	955	1,037	366	59	23	16		1,101	1,123	361	56	19	11				
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	38.9%	42.2%	14.9%	2.4%	0.9%	0.7%	5.14	41.2%	42.0%	13.5%	2.1%	0.7%	0.4%	5.20			
	1,095	1,007	295	33	10	10		1,096	1,095	385	64	20	12				
	44.6%	41.0%	12.0%	1.3%	0.4%	0.4%		41.0%	41.0%	14.4%	2.4%	0.7%	0.4%				
3. 総合評価	Q 8.【パフォーマンスの変化】	1,089	970	327	48	11	10	5.24	1,144	1,132	325	51	14	5	5.25		
		44.3%	39.5%	13.3%	2.0%	0.4%	0.4%		42.8%	42.3%	12.2%	1.9%	0.5%	0.2%			

授業区分別に設問ごとの回答傾向を分析すると、講義と実験・実習科目の比較ではQ 1～Q 7の設問では実験・実習科目の方が高い傾向にあります。これはもともと講義科目は座学が多く、学生が受動的な立場になることが多くなるため、参加型の授業である実験・実習科目の方の得点が高くなるのは自然な傾向と言えます。

また、実験・実習科目においては複数人の教員で担当することが多いため、学生一人ひとりに目を配り、適切なフィードバックを行いやすい点からも、Q 5（理解度の把握）やQ 6（フィードバックの有無）においても高い評価が得られています。こうした要素が相まって、Q 8（パフォーマンスの変化）およびQ 9（授業全体の満足度）についても、講義・実習科目と比較して高い傾向が見られたと思われます。

このような結果は例年と同様の傾向を示しており、本学の教育における特色の一つと位置づけることができます。

<アンケート結果の経年変化>

次に過去5年間のアンケート結果の経年変化を、授業区分毎に表6～8でお示しします。

表6 講義科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2025前期 (n=14,739)	2025後期 (n=11,337)	2024	2024前期 (n=15,712)	2024後期 (n=13,503)	2023	2023前期 (n=15,259)	2023後期 (n=13,712)	2022	2022前期 (n=19,757)	2022後期 (n=15,026)	2021	2021前期 (n=13,952)	2021後期 (n=12,009)
Q 1.【学修時間】	2.35	2.41	Q 1	2.25	2.38	Q 1	2.28	2.38	Q 1	2.27	2.39	Q 1	2.20	2.30
Q 2.【学修意欲】	4.80	4.81	Q 2	4.73	4.76	Q 2	4.68	4.76	Q 2	4.61	4.68	Q 2	4.50	4.62
Q 3.【聴覚情報】	5.00	5.01	Q 3	4.94	4.96	Q 3	4.89	4.95	Q 3	4.82	4.89	Q 3	4.93	5.00
Q 4.【視覚情報】	5.00	5.00	Q 4	4.95	4.97	Q 4	4.90	4.93	Q 4	4.80	4.87	Q 4	4.67	4.73
Q 5.【理解度の把握】	5.00	5.00	Q 5	4.91	4.94	Q 5	4.86	4.93	Q 5	4.78	4.87	Q 5	4.67	4.77
Q 6.【フィードバック】	4.83	4.87	Q 6	4.72	4.81	Q 6	4.67	4.79	Q 6	4.54	4.71	Q 6	4.39	4.54
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4.81	4.84	Q 7	4.55	4.62	Q 7	4.50	4.67	Q 7	4.31	4.50	Q 7	4.30	4.44
Q 8.【パフォーマンスの変化】	5.06	4.87	Q 8	5.02	5.03	Q 8	4.97	5.01	Q 8	4.88	4.94	Q 8	4.83	4.94
Q 9.【満足度】	5.05	5.04	Q 9	5.00	5.02	Q 9	4.95	4.99	Q 9	4.87	4.92	Q 9	4.81	4.88

表7 演習科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2025前期 (n=5,416)	2025後期 (n=3,394)	2024	2024前期 (n=6,356)	2024後期 (n=4,352)	2023	2023前期 (n=4,874)	2023後期 (n=4,880)	2022	2022前期 (n=7,093)	2022後期 (n=5,570)	2021	2021前期 (n=5,445)	2021後期 (n=3,338)
Q 1.【学修時間】	2.39	2.56	Q 1	2.30	2.47	Q 1	2.37	2.36	Q 1	2.33	2.43	Q 1	2.26	2.47
Q 2.【学修意欲】	4.86	4.90	Q 2	4.78	4.87	Q 2	4.71	4.82	Q 2	4.69	4.76	Q 2	4.55	4.69
Q 3.【聴覚情報】	4.97	5.06	Q 3	4.89	5.04	Q 3	4.96	5.01	Q 3	4.90	4.94	Q 3	4.98	5.07
Q 4.【視覚情報】	4.97	5.03	Q 4	4.89	5.02	Q 4	4.96	5.00	Q 4	4.88	4.92	Q 4	4.70	4.78
Q 5.【理解度の把握】	4.99	5.07	Q 5	4.91	5.01	Q 5	4.95	4.98	Q 5	4.88	4.92	Q 5	4.71	4.83
Q 6.【フィードバック】	4.89	5.00	Q 6	4.78	4.96	Q 6	4.82	4.92	Q 6	4.75	4.84	Q 6	4.59	4.72
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4.94	5.01	Q 7	4.78	4.96	Q 7	4.83	4.86	Q 7	4.67	4.79	Q 7	4.39	4.64
Q 8.【パフォーマンスの変化】	4.89	5.00	Q 8	4.99	5.06	Q 8	5.00	5.03	Q 8	4.93	4.96	Q 8	4.83	4.96
Q 9.【満足度】	5.02	5.08	Q 9	4.96	5.05	Q 9	4.98	5.01	Q 9	4.93	4.94	Q 9	4.81	4.90

表8 実験・実習科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2025前期 (n=2,457)	2025後期 (n=2,673)	2024	2024前期 (n=2,396)	2024後期 (n=3,645)	2023	2023前期 (n=2,344)	2023後期 (n=3,604)	2022	2022前期 (n=3,020)	2022後期 (n=3,850)	2021	2021前期 (n=2,712)	2021後期 (n=2,840)
Q 1.【学修時間】	2.43	2.84	Q 1	2.46	3.04	Q 1	2.38	3.08	Q 1	2.54	3.14	Q 1	2.67	3.33
Q 2.【学修意欲】	5.15	5.19	Q 2	5.16	5.16	Q 2	5.13	5.14	Q 2	5.08	5.12	Q 2	4.95	5.05
Q 3.【聴覚情報】	5.17	5.20	Q 3	5.19	5.16	Q 3	5.10	5.16	Q 3	5.05	5.07	Q 3	5.14	5.27
Q 4.【視覚情報】	5.13	5.15	Q 4	5.15	5.13	Q 4	5.09	5.12	Q 4	4.99	5.03	Q 4	4.92	4.97
Q 5.【理解度の把握】	5.14	5.18	Q 5	5.13	5.14	Q 5	5.06	5.13	Q 5	4.96	5.07	Q 5	4.89	5.04
Q 6.【フィードバック】	5.16	5.18	Q 6	5.14	5.14	Q 6	5.08	5.13	Q 6	5.00	5.06	Q 6	4.93	5.10
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	5.14	5.20	Q 7	5.11	5.15	Q 7	5.02	5.13	Q 7	4.88	5.08	Q 7	4.78	5.07
Q 8.【パフォーマンスの変化】	5.27	5.18	Q 8	5.30	5.28	Q 8	5.24	5.26	Q 8	5.21	5.18	Q 8	5.11	5.26
Q 9.【満足度】	5.24	5.25	Q 9	5.29	5.25	Q 9	5.23	5.21	Q 9	5.19	5.14	Q 9	5.11	5.17

この数年間の推移をみると、特に講義科目においては、Q 2（学修意欲）およびQ 9（満足度）の向上が顕著であり、Q 3（聴覚情報）、Q 4（視覚情報）に関しても改善傾向が見られます。これらの変化は、コロナ禍で養われました学習へ集中させるための取り組みなどが非常に良い影響をもたらした結果ではないかと推察されます。同様に教員による教材の工夫や授業方法の改善などの努力が、Q 5（理解度の把握）やQ 6（フィードバック）の改善にも繋がっていると思われます。このような教員の授業への取り組みの変化はQ 7（アクティブ・ラーニング）の改善という形で認められ、総合的な授業改善が進んでいることがうかがえます。

これらの項目がさらに向上することで、学生主体の学びの定着にもつながることが期待されます。

一方で、演習・実験科目については大きな変動は見られないものの、常に安定して高い評価を維持しています。これは、広島国際大学の各教員が専門職業人を育成する意義をよく理解し、健康・医療・福祉の総合大学として、患者さんや利用者への支援、さらには地域社会への貢献につながる実践的な知識・技術の修得を重視した授業を実施していることによる教育効果の高さが再確認された結果と捉えることができます。

表9 学修時間の推定値（単位：時間、過去5年間）

<学修時間>

次に、過去5年間における学修時間の推定値の推移を、表9に示します。学修時間に関する設問は、2020年度は遠隔授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答してもらっており、

回答1：0.5時間、2：1.5時間、3：2.5時間、4：3.5時間、5：4.5時間、6：5.5時間と仮定しております。2021年度からは対面と遠隔が併用された授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答してもらっており、回答1：1時間、2：2時間、3：3時間、4：4時間、5：5時間、6：6時間として学修時間を推定しました。

これらの推定値を基にすると、講義科目における学修時間は2020年度以降、大きな変化は見られませんが、演習・実験科目では若干の増減を繰り返しながら、緩やかな減少傾向が見られます。

続いて、アンケートQ 1で「選択肢1（1.5時間未満（例：教室でしか学修しておらず、授業外学修を全くしていない））」と回答した

学生、および「選択肢2（1.5時間～2.5時間未満（例：授業90分＋授業外学修1時間弱））」と回答した学生の割合の推移を、表10にお示しします。

表10 授業外学修が1時間未満の学生の割合（過去5年間）

	授業外学修	2025前期	2025後期	2024前期	2024後期	2023前期	2023後期	2022前期	2022後期	2021前期	2021後期
講義	0 h	24.1%	22.1%	25.9%	21.6%	24.1%	23.2%	23.4%	19.6%	21.1%	17.9%
	0-1 h	43.5%	43.7%	44.7%	45.2%	45.3%	42.6%	46.5%	46.9%	52.1%	52.3%
演習	0 h	24.8%	22.4%	25.9%	24.0%	22.6%	26.3%	22.5%	23.6%	22.4%	15.2%
	0-1 h	40.5%	38.7%	41.6%	40.5%	43.9%	40.6%	45.0%	40.3%	46.9%	47.5%
実験・実習	0 h	28.2%	19.8%	28.7%	17.0%	30.2%	16.2%	27.1%	12.9%	24.7%	10.2%
	0-1 h	35.7%	32.4%	32.6%	28.8%	33.9%	27.7%	31.8%	28.9%	33.0%	28.9%

においても25%前後で推移しており、大きな変化はないように見受けられます。しかし、実験・実習においては増加傾向にあります。この科目については、事前準備や授業後のレポート課題などがとても大切な科目であることを考えると、学生の授業に臨む意識が低下している可能性を示唆しているのかもしれませんが、この実験・実習の学習時間の変化には注意して経過観察が必要であると思われます。

一方、「授業外学修が1時間未満（選択肢2）」と回答した学生の割合は、講義科目ではおおむね45%前後、実験科目では30%前後で推移しています。実験・実習科目においてこの数値が増加傾向にあるものの、低い数値にとどまっているのは、実験後のレポート作成など、授業外に課される課題があることが要因と考えられます。

選択肢1と選択肢2の結果から、大学の単位制度に照らしても、単位取得に必要な学修時間に達していない可能性が高い状況であり、懸念されます。特に実験・実習科目では自分の行っていることが直接理解しやすい環境にあるにも関わらず学習時間の足りない学生が増加傾向にあることは、健康・医療・福祉の総合大学としての存在意義の根本を揺るがしかねない事態を引き起こす可能性に留意して取り組みを考える必要があるのかもしれませんが、いずれにしても選択肢1と選択肢2の割合を減らす必要があります。そのためには、各学科・専攻は全体としての目標を策定するなどし、教員は各々の授業スキルの向上のための研鑽を継続して行っていくことが重要であると思われます。このFD活動はこのような継続的な教員の成長に寄与するものですので、積極的に参加いただき、有効活用していただければ幸いです。

大学の単位制度では、1単位あたり約45時間の学修時間が必要とされており、たとえば1単位の授業であれば90分の授業を15回行い、それに加えて毎週1時間程度の自己学修が求められます。したがって、「選択肢2」の割合が高いことは、1単位の授業では一定の妥当性があると言えます。しかし、2単位科目では週4時間程度の自己学修が必要であり、同じ水準の学修時間では明らかに不足しています。単位数に応じた授業外学修の必要性について、今一度認識を深める必要があると考えています。

授業外の学修時間が不十分である背景には、学生自身の学修への取り組み姿勢に課題があることは否めません。とはいえ、教員側としてもそうした実態を踏まえたうえで、授業外学修への動機づけや工夫を講じる必要があります。さらに、学生が単位数と学修時間の関係を十分に理解していない可能性も考えられるため、ガイダンスに加えて、授業の初回などの場面でも、単位制度や自己学修の重要性について繰り返し説明することが重要であると考えています。

<総合評価と学修態度および教授技量の関係>

総合評価Q 8（パフォーマンスの変化）、Q 9（満足度）と、学生の学修態度（Q 1・Q 2）および教員の教授技量（Q 3～Q 7）との関連性について、以下に示します。なお、実験・実習科目ではQ 8・Q 9の得点が低い学生数が少なく、統計的な比較が難しいため、ここではすべての授業区分を統合した結果を示しております。

表11 総合評価（パフォーマンスの変化）と学生の学修態度および教授技量の関係（2025年度前期）

	計	設 問	6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う			まったくそう思わない				
Q8(6・5) パフォーマンスの 変化が大きい群	17,881	Q1.【学修時間】	980 5.5%	676 3.8%	1,278 7.1%	3,317 18.6%	7,659 42.8%	3,971 22.2%	2.44	
		Q2.【学修意欲】	6,122 34.3%	8,193 45.8%	2,863 16.0%	512 2.9%	109 0.6%	75 0.4%	5.09	
		Q3.【聴覚情報】	7,388 41.4%	8,352 46.7%	1,733 9.7%	299 1.7%	76 0.4%	18 0.1%	5.27	
		Q4.【視覚情報】	7,467 41.8%	8,328 46.6%	1,701 9.5%	283 1.6%	75 0.4%	16 0.1%	5.27	
		Q5.【理解度の把握】	7,318 41.0%	8,631 48.3%	1,603 9.0%	187 1.0%	104 0.6%	26 0.1%	5.28	
		Q6.【フィードバック】	6,607 0.0%	8,547 0.0%	2,084 0.0%	343 0.0%	221 0.0%	69 0.0%	5.16	
		Q7.【アクティブラーニング】	6,585 36.8%	8,685 48.6%	1,931 10.8%	363 2.0%	220 1.2%	95 0.5%	5.16	
Q8(4・3)	4,368	Q1.【学修時間】	58 1.3%	88 2.0%	343 7.9%	719 16.5%	1,727 39.5%	1,433 32.8%	2.11	-0.33
		Q2.【学修意欲】	147 3.4%	849 19.5%	2,458 56.4%	720 16.5%	134 3.1%	53 1.2%	4.00	-1.09
		Q3.【聴覚情報】	236 5.4%	1,036 23.8%	2,344 53.8%	549 12.6%	155 3.6%	37 0.8%	4.12	-1.14
		Q4.【視覚情報】	215 0.0%	991 0.0%	2,351 0.0%	618 0.0%	152 0.0%	34 0.0%	4.09	-1.18
		Q5.【理解度の把握】	213 4.9%	964 22.1%	2,513 57.6%	493 11.3%	126 2.9%	53 1.2%	4.11	-1.16
		Q6.【フィードバック】	93 2.1%	747 17.1%	2,611 59.8%	610 14.0%	235 5.4%	67 1.5%	3.92	-1.24
		Q7.【アクティブラーニング】	88 2.0%	666 15.3%	2,678 61.3%	641 14.7%	191 4.4%	102 2.3%	3.89	-1.27
Q8(2・1) パフォーマンスの 変化が小さい群	310	Q1.【学修時間】	13 4.2%	10 3.2%	17 5.5%	23 7.4%	76 24.5%	171 55.2%	1.90	-0.54
		Q2.【学修意欲】	26 0.0%	31 0.0%	73 0.0%	75 0.0%	51 0.0%	54 0.0%	3.17	-1.92
		Q3.【聴覚情報】	10 3.2%	31 10.0%	57 18.4%	76 24.5%	66 21.3%	70 22.6%	2.82	-2.45
		Q4.【視覚情報】	7 2.3%	17 5.5%	56 18.1%	69 22.3%	75 24.3%	85 27.5%	2.57	-2.71
		Q5.【理解度の把握】	8 2.6%	30 9.7%	47 15.2%	51 16.5%	78 25.2%	95 30.7%	2.56	-2.72
		Q6.【フィードバック】	5 1.6%	14 4.5%	38 12.3%	53 17.2%	84 27.3%	114 37.0%	2.25	-2.91
		Q7.【アクティブラーニング】	7 2.3%	16 5.2%	35 11.3%	40 12.9%	88 28.5%	123 39.8%	2.20	-2.96

表13 総合評価（パフォーマンスの変化）と学生の学修態度および教授技量の関係（2025年度後期）

	計	設 問	6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う			まったくそう思わない				
Q8(6・5) 変化が大きい群	13,922	Q1.【学修時間】	1,006 7.2%	638 4.6%	1,190 8.5%	2,603 18.7%	5,736 41.2%	2,749 19.7%	2.59	
		Q2.【学修意欲】	5,097 36.6%	6,290 45.2%	2,019 14.5%	353 2.5%	78 0.6%	77 0.6%	5.13	
		Q3.【聴覚情報】	5,905 42.4%	6,610 47.5%	1,195 8.6%	149 1.1%	44 0.3%	8 0.1%	5.31	
		Q4.【視覚情報】	5,821 41.8%	6,565 47.2%	1,307 9.4%	164 1.2%	42 0.3%	17 0.1%	5.29	
		Q5.【理解度の把握】	5,836 41.9%	6,750 48.5%	1,115 8.0%	136 1.0%	68 0.5%	14 0.1%	5.30	
		Q6.【フィードバック】	5,452 0.0%	6,691 0.0%	1,393 0.0%	227 0.0%	123 0.0%	31 0.0%	5.22	
		Q7.【アクティブラーニング】	5,372 38.6%	6,820 49.0%	1,326 9.5%	223 1.6%	111 0.8%	66 0.5%	5.22	
Q8(4・3)	3,230	Q1.【学修時間】	77 2.4%	91 2.8%	260 8.0%	548 17.0%	1,325 41.0%	929 28.8%	2.22	-0.36
		Q2.【学修意欲】	123 3.8%	596 18.5%	1,816 56.3%	534 16.6%	112 3.5%	42 1.3%	3.99	-1.14
		Q3.【聴覚情報】	148 4.6%	763 23.7%	1,767 54.8%	442 13.7%	88 2.7%	18 0.6%	4.12	-1.19
		Q4.【視覚情報】	144 0.0%	690 0.0%	1,829 0.0%	438 0.0%	101 0.0%	24 0.0%	4.08	-1.20
		Q5.【理解度の把握】	144 4.5%	649 20.1%	1,935 60.0%	368 11.4%	95 2.9%	35 1.1%	4.08	-1.22
		Q6.【フィードバック】	102 3.2%	465 14.4%	1,992 61.7%	460 14.2%	153 4.7%	57 1.8%	3.92	-1.31
		Q7.【アクティブラーニング】	88 2.7%	423 13.1%	2,023 62.6%	457 14.1%	157 4.9%	82 2.5%	3.87	-1.35
Q8(2・1) 変化が小さい群	226	Q1.【学修時間】	3 1.3%	4 1.8%	9 4.0%	30 13.3%	65 28.8%	115 50.9%	1.81	-0.78
		Q2.【学修意欲】	8 0.0%	17 0.0%	43 0.0%	56 0.0%	46 0.0%	56 0.0%	2.75	-2.38
		Q3.【聴覚情報】	9 4.0%	25 11.1%	33 14.6%	42 18.6%	53 23.5%	64 28.3%	2.69	-2.62
		Q4.【視覚情報】	8 3.5%	14 6.2%	36 15.9%	39 17.3%	64 28.3%	65 28.8%	2.53	-2.76
		Q5.【理解度の把握】	7 3.1%	19 8.4%	36 15.9%	26 11.5%	71 31.4%	67 29.6%	2.51	-2.79
		Q6.【フィードバック】	7 3.1%	14 6.2%	26 11.5%	25 11.1%	72 31.9%	82 36.3%	2.29	-2.94
		Q7.【アクティブラーニング】	10 4.4%	7 3.1%	21 9.3%	32 14.2%	68 30.1%	88 38.9%	2.21	-3.01

表12 総合評価（満足度）と学生の学修態度および教授技量の関係（2025年度前期）

	計	設 問	6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う まったくそう思わない							
Q9(6・5) 満足度の高い群	17,669	Q1.【学修時間】	966 5.5%	664 3.8%	1,269 7.2%	3,251 18.4%	7,551 42.7%	3,968 22.5%	2.43	
		Q2.【学修意欲】	6,071 34.4%	8,094 45.8%	2,806 15.9%	493 2.8%	115 0.7%	82 0.5%	5.09	
		Q3.【聴覚情報】	7,449 42.2%	8,407 47.6%	1,544 8.7%	190 1.1%	42 0.2%	19 0.1%	5.30	
		Q4.【視覚情報】	7,521 42.6%	8,342 47.2%	1,559 8.8%	188 1.1%	35 0.2%	11 0.1%	5.31	
		Q5.【理解度の把握】	7,311 41.4%	8,548 48.4%	1,545 8.8%	151 0.9%	77 0.4%	24 0.1%	5.29	
		Q6.【フィードバック】	6,588 0.0%	8,435 0.0%	2,070 0.0%	308 0.0%	195 0.0%	65 0.0%	5.17	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	6,523 36.9%	8,482 48.0%	1,991 11.3%	362 2.0%	209 1.2%	100 0.6%	5.16	
Q9(4・3)	4,554	Q1.【学修時間】	72 1.6%	102 2.2%	349 7.7%	770 16.9%	1,825 40.1%	1,436 31.5%	2.14	-0.30
		Q2.【学修意欲】	191 4.2%	944 20.8%	2,499 54.9%	732 16.1%	129 2.8%	54 1.2%	4.04	-1.05
		Q3.【聴覚情報】	182 4.0%	1,001 22.0%	2,529 55.6%	653 14.4%	156 3.4%	27 0.6%	4.07	-1.23
		Q4.【視覚情報】	166 0.0%	983 0.0%	2,504 0.0%	707 0.0%	162 0.0%	26 0.0%	4.05	-1.26
		Q5.【理解度の把握】	217 4.8%	1,065 23.4%	2,552 56.1%	522 11.5%	149 3.3%	44 1.0%	4.12	-1.17
		Q6.【フィードバック】	121 2.7%	861 18.9%	2,617 57.6%	637 14.0%	243 5.3%	68 1.5%	3.95	-1.22
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	150 3.3%	869 19.1%	2,610 57.3%	624 13.7%	195 4.3%	104 2.3%	3.97	-1.19
Q9(2・1) 満足度の低い群	361	Q1.【学修時間】	13 3.6%	8 2.2%	22 6.1%	41 11.4%	99 27.4%	178 49.3%	1.95	-0.48
		Q2.【学修意欲】	36 0.0%	45 0.0%	98 0.0%	86 0.0%	50 0.0%	45 0.0%	3.43	-1.66
		Q3.【聴覚情報】	7 1.9%	21 5.8%	71 19.7%	83 23.1%	99 27.5%	79 21.9%	2.66	-2.64
		Q4.【視覚情報】	8 2.2%	16 4.4%	57 15.8%	75 20.8%	105 29.2%	99 27.5%	2.47	-2.84
		Q5.【理解度の把握】	10 2.8%	28 7.8%	70 19.4%	60 16.7%	85 23.6%	107 29.7%	2.60	-2.69
		Q6.【フィードバック】	3 0.8%	17 4.7%	55 15.3%	64 17.8%	102 28.4%	118 32.9%	2.33	-2.84
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	10 2.8%	27 7.5%	52 14.4%	60 16.7%	94 26.1%	117 32.5%	2.47	-2.69

表14 総合評価（満足度）と学生の学修態度および教授技量の関係（2025年度後期）

	計	設 問	6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う			まったくそう思わない				
Q9(6・5) 満足度の高い群	13,713	Q1.【学修時間】	975 7.1%	608 4.4%	1,153 8.4%	2,545 18.6%	5,675 41.4%	2,757 20.1%	2.57	
		Q2.【学修意欲】	5,053 36.9%	6,191 45.2%	1,986 14.5%	339 2.5%	70 0.5%	65 0.5%	5.14	
		Q3.【聴覚情報】	5,914 43.2%	6,582 48.0%	1,059 7.7%	107 0.8%	35 0.3%	6 0.0%	5.33	
		Q4.【視覚情報】	5,861 42.8%	6,529 47.6%	1,168 8.5%	114 0.8%	23 0.2%	14 0.1%	5.32	
		Q5.【理解度の把握】	5,846 42.6%	6,594 48.1%	1,070 7.8%	126 0.9%	62 0.5%	14 0.1%	5.31	
		Q6.【フィードバック】	5,458 0.0%	6,508 0.0%	1,383 0.0%	212 0.0%	117 0.0%	30 0.0%	5.23	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	5,351 39.0%	6,608 48.2%	1,340 9.8%	240 1.8%	109 0.8%	63 0.5%	5.22	
Q9(4・3)	3,428	Q1.【学修時間】	100 2.9%	118 3.4%	288 8.4%	600 17.5%	1,392 40.6%	930 27.1%	2.29	-0.28
		Q2.【学修意欲】	162 4.7%	696 20.3%	1,838 53.7%	549 16.0%	120 3.5%	56 1.6%	4.02	-1.12
		Q3.【聴覚情報】	146 4.3%	806 23.6%	1,907 55.7%	464 13.6%	80 2.3%	19 0.6%	4.12	-1.21
		Q4.【視覚情報】	113 0.0%	731 0.0%	1,972 0.0%	479 0.0%	105 0.0%	22 0.0%	4.06	-1.26
		Q5.【理解度の把握】	142 4.1%	809 23.6%	1,971 57.6%	373 10.9%	94 2.7%	33 1.0%	4.13	-1.19
		Q6.【フィードバック】	102 3.0%	655 19.1%	1,996 58.2%	452 13.2%	160 4.7%	62 1.8%	3.97	-1.26
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	117 3.4%	638 18.6%	1,993 58.2%	428 12.5%	163 4.8%	88 2.6%	3.96	-1.26
Q9(2・1) 満足度の低い群	246	Q1.【学修時間】	10 4.1%	7 2.8%	18 7.3%	38 15.4%	66 26.8%	107 43.5%	2.11	-0.46
		Q2.【学修意欲】	14 0.0%	25 0.0%	53 0.0%	55 0.0%	46 0.0%	53 0.0%	2.97	-2.17
		Q3.【聴覚情報】	4 1.6%	14 5.7%	32 13.0%	62 25.2%	70 28.5%	64 26.0%	2.49	-2.84
		Q4.【視覚情報】	3 1.2%	11 4.5%	33 13.4%	50 20.3%	79 32.1%	70 28.5%	2.37	-2.95
		Q5.【理解度の把握】	0 0.0%	20 8.1%	47 19.1%	31 12.6%	78 31.7%	70 28.5%	2.47	-2.84
		Q6.【フィードバック】	0 0.0%	11 4.5%	36 14.6%	47 19.1%	73 29.7%	79 32.1%	2.30	-2.94
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	3 1.2%	7 2.9%	37 15.1%	47 19.2%	66 26.9%	85 34.7%	2.28	-2.93

表11および表13から、パフォーマンスの変化が小さい群（Q8が2または1の学生）では、「授業以外では学修していない（Q1＝選択肢1）」と回答した学生が半数以上にのぼっています。学修時間が少なければ、当然ながら学修効果も小さいという、ある意味で必然的な結果と考えられます。日常的な学習時間を増やしていく取り組みを検討していくことは急務であり、各教員の工夫が必要不可欠と思われるます。

一方、表11～14は項目数が多く比較しにくいいため、平均値のみを抜粋して整理したものが表15となります。

表15 パフォーマンスの変化と満足度に与える因子

	2025年度前期						2025年度後期					
	パフォーマンスの変化			満足度			パフォーマンスの変化			満足度		
	大きい	小さい	差	大きい	小さい	差	大きい	小さい	差	大きい	小さい	差
Q1.【学修時間】	2.44	1.90	-0.54	2.43	1.95	-0.48	2.59	1.81	-0.78	2.57	2.11	-0.46
Q2.【学修意欲】	5.09	3.17	-1.92	5.09	3.43	-1.66	5.13	2.75	-2.38	5.14	2.97	-2.17
Q3.【聴覚情報】	5.27	2.82	-2.45	5.30	2.66	-2.64	5.31	2.69	-2.62	5.33	2.49	-2.84
Q4.【視覚情報】	5.27	2.57	-2.71	5.31	2.47	-2.84	5.29	2.53	-2.76	5.32	2.37	-2.95
Q5.【理解度の把握】	5.28	2.56	-2.72	5.29	2.60	-2.69	5.30	2.51	-2.79	5.31	2.47	-2.84
Q6.【フィードバックの有無】	5.16	2.25	-2.91	5.17	2.33	-2.84	5.22	2.29	-2.94	5.23	2.30	-2.94
Q7.【アクティブ・ラーニング】	5.16	2.20	-2.96	5.16	2.47	-2.69	5.22	2.21	-3.01	5.22	2.28	-2.93

まず、学修時間（Q1）に着目すると、パフォーマンスの変化が大きい群と小さい群との平均値の差は、前期0.54、後期0.78。また、満足度の高低による差は、前期0.48、後期0.46となっており、他の設問項目と比較するとその差は比較的小さい傾向にあります。

本来、パフォーマンスの変化は学修時間の多寡に依存するものと考えられますが、学修時間の差がそれほど大きくなかった要因として、主に次の2点が考えられます。

（1）教員による授業の質の影響

Q2～Q7の回答傾向を見ると、パフォーマンスの変化が大きい群では、小さい群の2倍以上の得点が得られている項目が多数あります。これは、教員の授業に満足している学生ほど、授業中の理解度が高く、結果として自宅での学修時間が多くなくても効果的な学びにつながっている可能性を示しています。

（2）学生の意識と学修姿勢の違い

学生には「（授業90分＋授業外学修1時間）×15回＝1単位相当」という時間設定が説明されていると思われますが、学修への理解度が高く、意欲的な学生ほど集中力や効率的な学修によって短時間でも成果を上げられていると推察されます。

Q2（学修意欲）の得点差がQ1（学修時間）よりも大きい点からも、教員の指導力と学生の意欲が相乗効果を生んでいることがうかがえます。

教授技量（Q3～Q7）の各項目は、パフォーマンスの変化や満足度との関連性が特に強い結果となりました。中でもQ3（聴覚情報）、Q4（聴覚情報）は後期の差が大きくなっており、これは前期の学修内容を基礎として後期が構成されている教育課程の特性を反映していると考えられます。学修は積み上げが重要であるという理解を、1年次から学生に繰り返し伝えていく必要があるといえます。

Q6（フィードバック）についても、パフォーマンスの変化との間に2倍以上の差が見られました。フィードバックは全学生に対して提供されていることと思いますが、この差は「学生の受け取り方」に起因しているのではないかと個人的に推察しています。すなわち、同じフィードバックを受けても、意欲が低い学生や理解が追いついていない学生にとっては、その効果が十分に発揮されないという状況が考えられます。対応しなければならぬ学生数が増えつつある現状を考えると難しいかもしれませんが、特に成績が伸び悩んでいる学生に対しては、個別に時間をかけて対応するなど、さらなる工夫が求められます。

Q7（アクティブ・ラーニングの機会）の設問内容は、「グループワーク、討議、プレゼンテーション、ミニッツペーパーなど、他者（教員・学生）に自分の考えや疑問を発信する機会があったかどうか」を問うものです。同じ授業を受けているにもかかわらず、パフォーマンスの大きい群と小さい群の間に2倍以上の差が出ているという事実は、やはり学生の受け取り方や意識の違いが大きいのではないかと考えられます。発言に対する不安や羞恥心が評価を下げる要因となっている可能性もあり、学生には「間違いを恐れず、自分の考えを言葉にすること」の重要性を教員が繰り返し伝えていく必要があります。

なお、自由記述欄については、近年記載数が減少傾向にあるとの指摘が寄せられています。これは、全授業が調査対象となったことで、学生にとって入力が増え、煩雑に感じられる可能性があるためと考えられます。しかしながら、自由記述は学生の声を直接反映できる貴重な手段であるため、教員の皆様におかれましては、授業内で入力のための時間を確保していただくよう、ご協力をお願いいたします。

<まとめ>

2025年度は、新型コロナウイルスの影響がほとんどなくなり、通常の授業を実施できる環境が整いました。しかし、数年にわたるオンライン授業の経験より、双方向性を意識した授業の重要性や、その実践の難しさを実感された教員も多かったのではないのでしょうか。そうした経験に基づいて授業内容の再構築されたより良い授業内容へと変わっていったのではないのでしょうか。

教員が担当する授業自体は大きく変わらないことが多いため、今後も本調査を継続的に実施し、数年分のデータを蓄積していくことが重要です。これにより、コロナ禍以降の各教員の取り組みの傾向を把握でき、それを踏まえた授業内容の再構築に役立つと期待されます。

FD委員会では、より良い授業の実現に向けて、授業アンケートに加え、授業参観ウィークや講演会、ワークショップ形式の研修会など、さまざまな取り組みを行っています。これらは教員自らの積極的な参加が不可欠です。まだ参加経験の少ない教員の皆さまには、ぜひ前向きにご参加いただきたいと存じます。そこから生まれる教員の声こそが、広島国際大学における教育の質をさらに高める原動力となります。

教職員が一丸となって、より充実した教育方法を模索していくためにも、今後ともFD活動への積極的なご協力をお願い申し上げます。